

～異業種の風土（手法、仕組み、ものの見方、考え方）に
相互に触れ、現場力及び人間力の向上を図る～

令和3年度

業務革新研究会

会員募集

開催期間：2021年6月～2022年2月

人づくりの場	情報交換の場
人脈づくりの場	交流と刺激の場

◆品質革新研究会

【企画、開発段階から最終検査までの品質の造りこみ（魅力品質造り）の強化】

◆購買調達革新研究会

【購買調達革新によるコスト競争力の強化】

◆I E（産業工学）研究会

【I E手法による徹底したムダの排除】

◆生産保全（TPM）研究会

【生産システムの効率を最大限に高める、自主保全・予知保全と品質保全体制づくり】

◆生産管理（TOC）研究会

【TOC 制約条件理論による生産管理革新】

◆V E（開発・設計革新）研究会

【機能研究による付加価値〈開発・設計・生産〉の追求】

◆V S M（流れづくり）研究会

【モノと情報の流れづくりによる生産革新力の強化】

◆生産現場リーダー力強化研究会

【監督者哲学、リーダーシップ養成の場】

公益社団法人 京都工業会
技術・教育委員会

<ご案内>

現在、モノづくり企業においては、「働き方改革」や「デジタルトランスフォーメーション(DX)」の推進もあり、イノベーションによる生産性向上が重要視されてきております。

また、IoT、AI、ロボット、ビッグデータ等をはじめとする第4次産業革命の時代とも言われ、ドイツの「Industry4.0」、「中国製造 2025」等を各国が提唱をする中、日本でも「Society5.0」を提唱し、急速なデジタル化の進展とともに、ますます国際競争が激しくなってきました。

今後、モノづくり企業では、このような激しい環境の変化を背景にした国際競争に勝ち抜くため、より国際市場及び国内市場のニーズを的確に捉えた技術や製品開発に注力することはもちろん、「モノづくり」の革新力（現場改善力・生産技術力）や人材育成を更に強化していかなければなりません。

このような中、(公社)京都工業会・研究会事業は、昭和32年の工業会創立以来、基幹事業の1つとして、時代の変化に柔軟に対応しながら今日まで継続開催してまいりましたが、激動の時代に対応すべく、平成22年度から事業名も「業務革新研究会」へと一新し、従来の管理、改善ベースから、改革、革新ベースへとその内容を強化しております。

つきましては、貴社におかれましても、当研究会事業にご参画いただき、IE、VE、QCなどの改善技法を講義・演習をとおり、実践形式で磨いていただくと共に、成果をあげるモノづくり企業の革新事例の見聞をとおり、そこに含まれる様々な英知を今一度、貴社の風土に合わせたベンチマークとして構築いただき、更なる今後のご発展に活用いただければ幸いです。謹んでご案内申し上げます。

2021年4月
公益社団法人 京都工業会
技術・教育委員会

《開催要領》

◇開催目的 各種手法やものの見方や考え方を磨き、業務革新を推進する人材の育成を図る。

◇対象 管理技術関連部門のリーダー（主任、係長）及び若手社員

◇ねらい <A:基礎コース>→講義や討議、演習による業務革新能力の向上の場
<B:応用コース>→研究会OBや実務に精通した方々の実践研究の場
※研究会によっては、コース選択ございません。

◇会場 京都経済センター 本会・会議室またはオンライン
(京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町 78 京都経済センター6F)

◇期間 2021年6月～2022年2月(計9会合) 13:30～17:00
(但し、6月～9月は、10:00～17:00)

◇定例日 研究会毎に設定(但し、メンバーのご都合により都度、柔軟に対応致します。)

◇運営の基本

- | |
|---|
| ①メンバーの目標や課題について、正副主査(その年度の登録メンバーより選出)を中心に企画し、基本を踏まえた実践的な運営を図ります |
| ②メンバー間のギブ&テイクや専任アドバイザーの助言、ゲスト講演、工場見学、演習などを効果的に実施いたします |

◇参加のメリット

- | |
|--|
| ①実践的な内容により、一般のセミナーでは得られない幅広い視野と発想力を養うことができます |
| ②メンバー間やアドバイザー及びゲスト講師との人的ネットワークが構築できます |

◇活動形態(基本型)【詳細の活動計画は、参加者のご希望を基に、研究会毎に企画いたします】

前期	基本編(6月～9月)→参加目的や実務経験に応じた選択制を採用 <input type="checkbox"/> 手法や考え方を基礎から学ぶ <A>コース(講義+相互事例紹介&見学) <input type="checkbox"/> 応用実務研究(展開&定着化) コース(グループ討議・相互訪問→まとめ)
後期	実務編(10月～2月)→コース毎の課題の掘り下げ(分科会活動) 専門テーマの絞込み(分科会編成)→課題毎の実践研究→まとめ(報告書作成) ※必要に応じ工場見学や現場改善実習、大会等を開催します

◇年会費

研究会毎に1口 京都工業会 会員企業 **73,300円(税込)** 会員外 **104,900円(税込)**
(但し、1口につき2名の参加ができますので、**極力2名ご登録**願います)

◇お申込とお問い合わせ

①申込方法:添付の申込用紙に記載のうえ、FAXにて **〆切 5月25日(火)**

②お問い合わせ先:(公社)業務課 小嶋大樹 (TEL 075-353-0061)

(注)「人材開発支援助成金」(旧キャリア形成促進助成金)の対象の有無は、お近くの労働局へお問い合わせ願います

《品質革新研究会》

～企画、開発段階から最終検査までの品質の造りこみ（魅力品質造り）の強化～

【目的】

品質革新研究会では、開発設計段階で品質を作りこむDR（設計審査）、QFD（品質機能展開）、FMEA・FTA及びQC七つ道具等を活用した工程内品質、受入品質の管理及び顧客クレームへの対応、不具合データの解析、設計部門へのフィードバック方法等を通し、グローバル市場競争を勝ち抜くための魅力ある品質造りを研究いたします

【参加対象】

- Aコース：品質保証、品質管理及び製品設計等の実務担当者
- Bコース：研究会OB及び品質保証（管理）マネージャー

【ねらい】

- Aコース→基本事項を踏まえた業務改善能力の向上
- Bコース→相互訪問、事例研究によるマネジメント&問題解決能力の向上

【研究項目（案）】

- ◇企画、開発段階における品質の造りこみ（QFD、設計FMEA、DR・DRBFM）の研究
- ◇初期流動管理（QC工程図、工程FMEA）による生産初期段階の品質向上の研究
- ◇手法活用による工程内不具合及び客先クレーム対応の研究
- ◇不具合や故障解析データの企画、開発、設計部門へのフィードバック（FB、失敬）の研究
- ◇工場見学や講演による先進企業の実例研究

【定例日】

毎月 第4火曜日

【アドバイザー】

高山直彦氏（元(株)島津製作所 分析計測事業部 品質保証部 副参事）

(株)島津製作所にて、医用機器事業部で、超音波診断装置や治療装置の研究開発や全社部門の設計審査や耐久試験に従事後、シンガポールで品質評価センターを設立、その後、京都府の行政改革を推進後、分析計測事業部品質保証部で、X線装置の品質改善や統計手法を用いた故障解析を行う

【初回例会案内】

と き 2021年6月22日（火） 10:00～17:00

と ころ 京都工業会・本会会議室

- 内 容
- 研究会活動の概要説明
 - 相互自己紹介
 - 年度方針の選定・確定
 - A、Bコースの確定
 - アドバイザーによる基調講演

<第2回例会以降の予定>

開催	テーマ、内容、ゲストなど
第2回:7月	<p><コース別活動></p> <p><input type="checkbox"/>Aコース アドバイザーの講義「分科会テーマにて確定」と手法演習等</p> <p><input type="checkbox"/>Bコース 討議「各社品質管理の仕組みと課題」又は事例紹介</p>
第3回:8月	<p><コース別活動></p> <p><input type="checkbox"/>Aコース アドバイザーの講義「分科会テーマにて確定」と手法演習等</p> <p><input type="checkbox"/>Bコース 参加企業の事例紹介による共通課題の掘り下げ</p>

【昨年度活動の概要】 <ご参考>

基本方針 (研究項目)	基本的なQC手法の習得と自社への活用と展開
活動内容 (前期)	<p>【講義・演習】</p> <p>「品質管理の基礎」</p> <p>「方針管理と日常管理」</p> <p>「工程QC」</p> <p>「不具合改善」</p> <p>「FMEA」</p> <p>「問題探索と優先順位」</p> <p>「SOLVE式問題解決法」</p> <p>「6σ改善活動」</p> <p>「QC検定4級&3級」</p>
(後期)	<p>【各社問題探索】</p> <p>SOLVE式問題解決法の手法に沿って、各社の問題点の共有とそれに向けての解決方法の討議を行った</p> <p>【事例紹介】</p> <p>「ムラタを事例に品質を考える」</p> <p>「品質の取組みについて」</p> <p>【活動のまとめ】</p> <p>アドバイザーの講義、演習や事例研究から得たこと、効果的に活用したこと等をまとめた</p>
アドバイザー	元(株)島津製作所 分析計測事業部 品質保証部副参事 高山直彦氏

<昨年度参加者の声>

○グループ討議にてQC手法を実際に用いることによって理解が深まった

○品質に関するそれぞれの会社の取り組みなどが見て聞けたので良かった

《生産管理(TOC)研究会》

～TOC制約条件理論による生産管理革新～

【目的】

生産管理(TOC)研究会では、いわゆる制約条件理論(Theory of Constraints)に基づく全体最適を実現するため、生産管理を「マネジメント」として捉え、これまでのマネジメントを変革することにより企業利益の最大化に直結する考え方や方法論について普遍的な観点から、自社のビジネスプロセスの変革ポイントを研究いたします

【参加対象】

生産管理部門及び情報システム部門の実務担当者、管理者

【ねらい】

基本事項を踏まえた業務改善能力の向上及び企業診断によるマネジメント&問題解決能力の向上

【研究項目(案)】

- ◇生産管理の基礎研究(売り方/作り方/買い方)ともの作りにおける問題解決方法の研究
- ◇販売形態に合わせたもの作りの研究
- ◇生産管理システムとIT活用事例(ERP)の研究
- ◇先進企業の訪問や事例紹介に学ぶ生産管理システムの研究
- ◇参加企業における全体最適もの作りの研究(TOC実践演習)

【定例日】

毎月 第2金曜日

【アドバイザー】

日新電機(株)情報システム部長 高橋浩史氏

入社以来、業務改革活動による同社のグループ企業を含めたビジネスプロセスの構築及び基幹システムの全面刷新を実現。現在は国内外関係会社に対する業務改革や財務/管理連結を推進中。平成5年度 同研究会主査

【初回例会案内】

と き 2021年6月11日(金) 10:00~17:00

と ころ 京都工業会・本会会議室

- 内 容
- 研究会活動の概要説明
 - 相互自己紹介
 - 年度方針の選定・確定
 - アドバイザーによる基調講演

<第2回例会以降の方向性>

開催	テーマ、内容、ゲストなど
第2回:7月	アドバイザーの講義「利益に直結する仕組みと定石」と演習
第3回:8月	アドバイザーの講義「生産管理と原価管理」と演習

【昨年度活動の概要】 <ご参考>

基本方針 (研究項目)	生産管理の基礎を学び問題解決するための研究 ～先進企業の訪問や事例紹介(失敗事例含む)から学ぶ生産管理システム～
活動内容 (前期)	<p>【講義】 「生産管理の基本的な考え方」、「問題構図ツリー」、「中核問題」、 「生産管理と原価企画」、「スループットの考え方と最大化の方程式」、 「在庫/仕掛りが隠すものづくりの問題点」、「生産L/T短縮」、 「生産ラインの見直し(同期・生産クリティカルチェーン)」、 「工場分類と着眼ポイント」、「TOC改善事例紹介」</p> <p>【グループ演習】 「現場の抱える問題点と現状問題構造ツリー」、「中核問題と対立構図」、 「アイデア発想と評価」、「原価計算と利益」、「購買マネージャーのジレンマ」</p> <p>【DVD視聴】 「ザ・ゴール Movie～つながりとバラツキ～」</p> <p>【アドバイザーによる事例紹介】 「生産管理レベル向上による全体最適のシナリオ」</p>
(後期)	<p>【実践研究】 <実施企業：(株)堀場製作所> 前期で学んだTOCの考え方を基に参加企業の「モノと情報の流れ」を傾聴し、下記手順に沿って活動を行った</p> <p>「企業診断」→「問題点の整理と中核問題の抽出」→「問題点構造ツリー」</p> <p>←</p> <p>「対立解消アイデア発想」→「アイデア評価」→「対立解消図と仮説」</p> <p>←</p> <p>「対立解消後のスキーム」→「具体的施策と実施手順」</p> <p>【オンライン事例紹介】 「TOCソリューションの社内展開と TOC思考プロセスを活用した組織戦略の選定」</p> <p>【活動成果報告会】 実践研究の成果をグループ毎に生産管理診断レポートとしてまとめ、最終例会において、実習企業の方を迎えて発表した</p>
アドバイザー	日新電機(株)情報システム部長 高橋浩史氏

<昨年度参加者の声>

- 前期の内容を活かした実践を行うことができ、実践された企業の話や聴く事が出来て良かった
- 他社の生産管理との交流が無かったので、色々な意見など聞く事ができ、同じような問題を抱えておられるとともに情報交換することが出来た。

《購買調達革新研究会》

～購買調達革新によるコスト競争力の強化～

【目的】

購買調達革新研究会では、グローバル経済における海外調達方法のあり方、サプライヤーの評価、育成指導による調達品のQCD向上、環境対応及びPCSやVRP等のコストダウン手法を効果的に活用したコスト競争力の強化及びSCMとリスク管理、また、購買業務におけるAI活用など、最適なコストを追求する手法を研究いたします

【参加対象】

- Aコース：購買、資材部門及び外注管理部門の実務担当者
- Bコース：研究会OB及び購買資材担当マネージャー

【ねらい】

- Aコース→基本事項を踏まえた業務改善能力の向上
- Bコース→相互訪問、事例研究によるマネジメント&問題解決能力の向上

【研究項目（案）】

- ◇パートナー企業の集約・評価、新規開拓及びその指導、育成方法（要求品質・L/T短縮、CD）の研究
- ◇あるべきコスト（例：PCS）の求め方と運用及びコスト体系の研究
- ◇購買市場調査（環境対応素材、関連技術等）の計画立案と進め方の研究
- ◇下請法に基づく集中購買、拠点購買、開発購買等、購買戦略の研究
- ◇グローバル調達とSCMを組み合わせた新しい調達方式（VMI等）とリスク管理研究

【定例日】

毎月 第3火曜日

【アドバイザー】

北村繁一氏（元オムロンロジスティッククリエイツ(株)取締役）

オムロン(株)において、集中購買、コストテーブル、拠点集約、生産部門のマネジメントを歴任後、オムロンロジスティッククリエイツ(株)にてグループ全体のSCM構築等に活躍。現在は創業支援等に活躍中

【初回例会案内】

- と き 2021年6月15日（火） 10:00～17:00
- と ころ 京都工業会・本会会議室
- 内 容 研究会活動の概要説明
相互自己紹介
年度方針の選定・確定
A、Bコースの確定
アドバイザーによる基調講演

<第2回例会以降の方向性>

開催	テーマ、内容、ゲストなど
第2回:7月	<p><コース別活動></p> <p><input type="checkbox"/>Aコース アドバイザーの講義「戦略購買、開発購買」と演習</p> <p><input type="checkbox"/>Bコース 討議「各社購買管理、調達方法の仕組みと課題」</p>
第3回:8月	<p><コース別活動></p> <p><input type="checkbox"/>Aコース アドバイザーの講義「コストの正しい求め方」と演習</p> <p><input type="checkbox"/>Bコース 参加メンバー会社訪問による共通課題の掘り下げ</p>

【昨年度活動の概要】 <ご参考>

基本方針 (研究項目)	購買実務の基本の習得と応用への活用
活動内容 (前期)	<p>【講義】</p> <p>「戦略購買」、「サプライヤー評価・育成」、「開発購買」、「原価企画」、 「PCS(購入コスト基準)の求め方」、「コストダウンの進め方」、 「購買情報の活用」、「グローバル調達展開」、「調達L/Tの短縮」、 「購買折衝の進め方・下請法の概要と留意点」</p> <p>【討議】</p> <p>「サプライヤー評価と育成」、「開発購買」、「PCSの運用」、 「コストダウンアプローチ」、「購買情報収集」、「調達L/T短縮」、</p> <p>【分科会活動】</p> <p>「パートナー評価と育成」、「コストの妥当性」、「交渉力」のテーマにて 分科会を編成した</p>
(後期)	<p>【事例紹介】</p> <p>「価格分析の購入原則 機能の購入方法を学ぶ」</p> <p>【オンラインOB事例紹介】</p> <p>「原価低減活動」 「戦略購買」</p> <p>【活動のまとめ】</p> <p>分科会毎に前期活動・事例紹介で得たノウハウを各自の実務に活かせるよう、 あるべき姿を想定し、改善案をまとめ発表した</p>
アドバイザー	元オムロンロジスティッククリエイティブ(株)取締役 北村繁一氏

<昨年度参加者の声>

- 購買業務経験が浅い時期に参加したが、バイヤーの心構えと意識改革を身につける事が出来た
- 研究テーマについて他社の方と意見交換することで自分自身の視野を広げることが出来た

《VE（開発・設計革新）研究会》

～機能研究による付加価値の追求～

【目的】

VE（開発・設計革新）研究会では、製品や部材のコストダウンに最も有効な管理技術の一つであるVE（Value Engineering）について実践研究を行ないます。
原価の75～80%は開発・設計段階で決定されるとされており、この段階で顧客の求める性能やデザイン等を効率的に達成する方法を検討して実現されるかが、極めて重要です。そこで、機能的にアプローチして大きな成果を狙うVEを開発・設計段階に適用する具体的方法をケーススタディ等を通して実践し、参加各社の付加価値製品や高機能部品、部材にVEを適用していただく方法を研究いたします

【参加対象】

開発、設計部門の実務担当者及び開発設計マネージャー

【ねらい】

基本事項を踏まえた業務改善能力の向上

【研究項目（案）】

- ◇簡易演習によるVE活動の実施手順の研究（機能定義→機能評価→改善案作成）
- ◇開発設計プロセス（構想設計—基本設計—詳細設計）におけるVE活用の研究
- ◇開発設計プロセスにおけるQFD（品質機能展開）、DR（設計審査）、テアダウンの研究
- ◇参加メンバー企業の事例を用いた開発、設計段階のVE実践研究（付加価値向上）
- ◇先端事例（現地法人におけるVE）に学ぶVE実践&リダー育成方法の研究（組織化・教育研修方法）

【定例日】

毎月 第2木曜日

【アドバイザー】

バリューアップ研究所 代表、大阪府立大学 非常勤講師 谷 彰三氏（元 シャープ(株)参事）

シャープ(株)資材本部にて取引先改善指導に従事後、経理本部にて全社VE活動実践指導、グローバルVE活動統括、原価企画・原価統括業務に貢献。（公社）日本VE協会「普及功労賞」、「優秀VE論文賞」、「研究開発功績賞」、（公社）日本経営工学会「経営工学実践賞」を受賞。
現在は、コンサルタントとして活躍中

【初回例会案内】

と き 2021年6月10日（木） 10:00～17:00

と ころ 京都工業会・本会会議室

- 内 容
- 研究会活動の概要説明
 - 相互自己紹介
 - 年度方針の選定・確定
 - アドバイザーによる基調講演

<第2回例会以降の方向性>

開催	テーマ、内容、ゲストなど
第2回:7月	アドバイザーの講義「VE活動の進め方」と対象品による演習①
第3回:8月	アドバイザーの講義「VE活動の進め方」と対象品による演習②

【昨年度活動の概要】 <ご参考>

基本方針 (研究項目)	VE基礎知識の習得と実例を踏まえた自社への適用の研究
活動内容 (前期)	<p>【講義】 「VE実施手順」、「アイデア発想」、「コスト評価」</p> <p>【演習】 リムーバー（ホッチキスの芯抜き）を用いた演習により、 VE実施手順及び実施ポイントの理解を深めた</p>
(後期)	<p>【VE実践演習】 前期で演習したVE実施手順による実践活動を展開し、 新たにメンバー企業からいただいた製品にて、VE改善提案としてまとめた</p> <p>【VE全国大会 オンライン聴講】～様々な外部企業のVE事例に学んだ～ 「VE活性化のための課題と方策～VEの変革を目指して～」 日本経営システム協会 メタVE研究会 「製造VEプロジェクト活動に用いる機能定義の動詞調査」 三菱パワー(株)</p> <p>「結果にコミットする！TESZAP～熱源機配管カバーの標準化VE～」 東京ガス(株)</p> <p>「樹脂成形品におけるお客様と一体になった「源流原価企画活動」の推進」 矢作産業(株)</p> <p>「開発上流におけるVE適用の仕組み構築による経営貢献」 三菱電機(株)</p> <p>「幸せの見える化技術～ニューノーマル時代の組織革命～」 (株)日立製作所</p> <p>【活動成果報告】 講義や演習を通し学んだVEの基本的な考え方や事例研究、対象品を用いた 実践研究から得たVEの活用方法等を報告書にまとめ、参加者の上司をオン ラインで招いて報告会を行った</p>
アドバイザー	バリューアップ研究所 代表 谷 彰三氏

<昨年度参加者の声>

- 今回の研究会を通して学んだ内容でVE案を検討することで、目標価格を達成出来るように業務を推進したい
- 競争力のある商品開発を進めていくためには、企画/設計段階からのVE活用は非常に有効な手段であると思った

《 I E（産業工学）研究会 》

～ I E手法による徹底したムダの排除～

【目 的】

I E（産業工学）研究会では、代表的な I E手法である工程分析、動作分析、D T S（直接時間研究法）を活用した工数低減や標準作業 3 点セット（工程能力表・標準作業票・標準作業組み合わせ票）による作業改善、段取り改善など徹底した現場のムダ排除について、現場改善実習を含めた実践研究を行ないます

【参加対象】

- Aコース：生産部門及び I E改善部門の実務担当者
- Bコース：研究会 O B 及び生産革新推進者

【ねらい】

- Aコース→基本事項を踏まえた業務改善能力の向上
- Bコース→相互訪問、事例研究によるマネジメント&問題解決能力の向上

【研究項目（案）】

- ◇ 3 S、5 S の導入・定着と効果的な運用方法の事例研究
- ◇ I E手法（工程分析、動作分析、WS、D T S）・通り診断法による効果的な現状分析の研究
- ◇ 標準作業 3 点セット（工程別能力表・標準作業票・標準作業組み合わせ票）による改善方法（段取り替え、工程連結）の研究
- ◇ 現場改善実習による作業改善方法（工数低減、段取り替え等）の実践研究
- ◇ 外部企業訪問による I E活用事例（IoT 活用、段取り替え、セル生産）の研究

【定例日】

毎月 第 1 火曜日

【アドバイザー】

N P S ソリューション 代表 吉植久正氏（元オムロン(株)主事）

オムロン本社及び各事業部にて生産革新活動の推進として、オムロンの各工場に対し、改善活動の支援を行う。定年後、独立、現在、コンサルタントとして活躍中

【初回例会案内】

と き 2021年6月1日（火） 10:00～17:00

と ころ 京都工業会・本会会議室

- 内 容
- 研究会活動の概要説明
 - 相互自己紹介
 - 年度方針の選定・確定
 - A、Bコースの確定
 - アドバイザーによる基調講演

<第2回例会以降の方向性>

開催	テーマ、内容、ゲストなど
第2回:7月	<p><コース別活動></p> <p><input type="checkbox"/>Aコース アドバイザーの講義「工程分析、作業分析」と演習</p> <p><input type="checkbox"/>Bコース 討議「各社の生産性向上への課題」、実習企業の確定</p>
第3回:8月	<p><コース別活動></p> <p><input type="checkbox"/>Aコース アドバイザーの講義「標準作業の分析、5S」と演習</p> <p><input type="checkbox"/>Bコース 現場改善実習企業の「通り診断による課題抽出」</p>

【昨年度活動の概要】 <ご参考>

基本方針 (研究項目)	IE手法を習得し、事例研究
活動内容 (前期)	<p>【講義】</p> <p>「IoTとAI」、「工程分析」、「ワークサンプリング」、「作業分析」、「段取り改善」、「3S活動」、「動作分析」、「標準作業」、「LCA」、「通り診断法」、「セル生産方式」、「標準時間とレイティング」</p> <p>【演習】～VTR等を活用し、各種手法を演習～</p> <p>「PQ分析」、「標準作業3点セット（セル生産）」、「作業改善」、「5S」、「工程分析」、「作業分析」、「動作分析」、「レイティング」、「工程別能力表」、「標準作業組合せ票」</p>
(後期)	<p>【オンライン工場見学】</p> <p>「生産革新取組み」</p> <p>【現場改善実習】 <提供企業：オムロン京都太陽㈱></p> <p>前期で学んだIE手法の実践の場として事前に撮影した各現場のビデオ及び写真を基に時間分析等から現状の課題を把握し、改善案を作成</p> <p>【第23回 京都KAIZEN大会】</p> <p><現場改善実習の報告></p> <p>現場改善実習の成果を「現場改善」、「3S」のグループ毎に改善案をまとめて、提供企業の方へ発表した</p> <p><特別講演></p> <p>「DXの活用でいかに人間らしい仕事ができる現場を作るか</p> <p>～明るく楽しい現場からしか、良い製品・サービスは生まれない!～」</p> <p>関ものづくり研究所 代表 関 伸一氏</p>
アドバイザー	NPSソリューション 代表 吉植久正氏

<昨年度参加者の声>

○IE研究会で学んだことを仕事で役立てるようにトライしていった

○Zoomで参加したりリモートで工場見学をしたりして、通常の講習では、見えない細かな事まで勉強できた

《VSM（流れづくり）研究会》

～モノと情報の流れづくりによる生産革新力の強化～

【目的】

VSM（流れづくり）研究会では、トヨタ生産方式の理論や体系を理解いただくと共に、モノと情報の流れを理解し、組立型（例：電子機器組立）や、加工型（例：機械加工）の現場等、生産形態・特徴に合った流れづくりについて研究を行います。また、実践力を重視し、研究会参加企業での実践研究による生産革新力の強化を図ります

【参加対象】

生産部門のライン改善担当者及び生産革新推進者

【ねらい】

基本事項を踏まえた現場改善能力の向上及び相互訪問による現場改善実習（流れづくり、ムダ取り等）

【研究項目（案）】

- ◇生産革新に求められる分析力、設計力、実践力の研究
- ◇工場・ライン全体の流れ（つなぎ・連携の仕組み）づくりの研究
- ◇研究会参加企業の業種に合わせた多部材組立型モデル生産システム構築の研究
- ◇研究会参加企業の業種に合わせた多工程加工型モデル生産システム構築の研究
- ◇研究会参加企業でのモノと情報の流れづくり（工程・作業の連携化、標準作業）の展開手順の演習と実践研究

【定例日】

毎月 第4木曜日

【アドバイザー】

香川改善オフィス 代表 香川博昭氏（元 関西日本電気㈱生産革新推進室長）

関西日本電気㈱において、生産革新推進室長として、IE及びTPS（トヨタ生産方式）やTPMの導入・展開に多大な貢献をなす。現在、コンサルタントとして、国内外の様々なモノづくり工場における生産革新（Q：品質向上、C：コスト削減、D：デリバリー、リードタイム改善）活動の指導、及び、各種改善研修の講師を担当。実践型指導者として活躍中

【初回例会案内】

と き 2021年6月24日（木） 10：00～17：00

と ころ 京都工業会・本会会議室

- 内 容
- 研究会活動の概要説明
 - 相互自己紹介
 - 年度方針の選定・確定
 - アドバイザーによる基調講演

<第2回例会以降の方向性>

開催	テーマ、内容、ゲストなど
第2回:7月	<コース別活動> <input type="checkbox"/> Aコース 講義「分析の進め方(ワークサンプリング分析、ビデオ分析)」と演習 <input type="checkbox"/> Bコース 討議「各社のモノと情報の流れ、及び生産システム上の課題」
第3回:8月	<コース別活動> <input type="checkbox"/> Aコース 講義「流れづくりとVSMの作成」と演習 <input type="checkbox"/> Bコース 研究会参加企業、及び、現場改善実習企業の「モノと情報の流れ(目指す姿)の研究」

【昨年度活動の概要】 <ご参考>

基本方針 (研究項目)	モノと情報の流れづくりによる全体最適化
活動内容 (前期)	【講義・演習】 「TPSの基本的な考え方」 「モノと情報の流れの現状把握」 「分析の進め方(ビデオ分析)」 「ワークサンプリング分析」 「モノと情報の流れ図(VSM:バリュー・ストリーム・マップ)の描き方」
(後期)	【VSM作成】 前期活動をふまえて、各社の「VSM(モノと情報の流れ図)」を下記に沿って目指す姿の検討を行った 「現場のインからアウトまでの流れの分析」 「重要課題(ボトルネック・クリティカルパス・ムダ)を掴む」 「問題の原因・構造を掴む→事実を調査し仮説と検証」 「対策の検討と実施」 【第23回京都KAIZEN大会】 <VSM作成報告> 各社で作成したVSMを基に分析を行った結果を発表した <特別講演> 「DXの活用でいかに人間らしい仕事ができる現場を作るか ~明るく楽しい現場からしか、良い製品・サービスは生まれない!~」 関ものづくり研究所 代表 関 伸一氏
アドバイザー	香川改善オフィス 代表 香川博昭氏

<昨年度参加者の声>

- 現場を俯瞰的に見ることで問題点やムダに気付くこと、そういう意識が大切だと思った
- モノと情報の流れ図を他機種にも展開していき製造工程の問題点を抽出していきたい

《生産保全（TPM）研究会》

～生産システムの効率を最大限に高める、自主保全・予知保全と品質保全体制づくり～

【目的】

生産保全（TPM）研究会では、生産の平準化、自動化、標準作業等の生産体制（TPS）確立の基礎として生産の多様化対応の設備管理の在り方に着目し、不良ゼロ、故障ゼロなどあらゆるロス、ムダを削減し、IoT活用事例や先進事例を通し、生産システムを最大限に引き出すための設備保全のあり方を工場見学や実践活動を通して研究します

【参加対象】

生産技術部門及び設備保全部門の実務担当者及びマネージャー

【ねらい】

基本事項を踏まえた設備保全能力の向上及び事例研究による問題解決能力の向上

【研究項目（案）】

- ◇生産システム効率化の個別改善の研究（プロジェクトチーム、小集団）
- ◇オペレーターの自主保全体制づくりの研究（ステップ、診断、安全）
- ◇保全部門の設計保全体制づくりの研究（改良保全・定期保全・予知保全）
- ◇品質保全体制づくりの研究（不良の出ない条件設定、使いやすい設備＜LCA＞）
- ◇先進工場訪問によるTPM活動の推進事例の研究及び参加企業でのTPM実践研究

【定例日】

毎月 第4金曜日

【アドバイザー】

（株）高橋事務所 代表 高橋文彦氏（元京都機械工具株式会社常務執行役員生産本部長）

入社以来、取引先であるトヨタ自動車株式会社との長年の交流からトヨタ生産方式に基づく生産管理システムの構築や工程改善など各種改善活動の推進に多大な貢献をなす。退職後、コンサルタントとして活躍中

【初回例会案内】

と き 2021年6月25日（金） 10:00～17:00

と ころ 京都工業会・本会会議室

- 内 容
- 研究会活動の概要説明
 - 相互自己紹介
 - 年度方針の選定・確定
 - アドバイザーによる基調講演

<次回2回例会以降の方向性>

開催月	テーマ、内容、ゲストなど
第2回:7月	□研究会参加企業やOB企業事例によるTPM事例研究 または、アドバイザーの講義
第3回:8月	□研究会参加企業やOB企業事例によるTPM事例研究 または、アドバイザーの講義

【昨年度活動の概要】 <ご参考>

基本方針 (研究項目)	保全知識スキル向上による予知保全、自主保全の体制づくり
活動内容 (前期)	<p>【講義】</p> <p>「TPMの考え方」 「設備総合効率(時間稼働率・性能稼働率・良品率)」 「設備の7大ロス」</p> <p>【事例紹介】</p> <p>講演「回転機械の振動傾向管理手法」 「保全の改善事例」 実演「ローターキット実習」</p> <p>【相互活動紹介】</p> <p>参加企業各社の現状TPM活動の紹介</p>
(後期)	<p>【事例紹介】</p> <p>「機械外部清掃、内部清掃、点検部品の可視化等」 「TPM活動、エフ付けエフ取り活動等」</p> <p>【オンライン工場見学】</p> <p>「5S活動」 「設備生産性の向上」</p> <p>【活動のまとめ】</p> <p>年間を通して学んだTPM活動(初期清掃による不具合発見、不具合発生箇所対策、自主保全基準、標準化、維持管理等)をTPM固有技術とこれからの社内推進役として討議を行った</p>
アドバイザー	(株)高橋事務所 代表 高橋文彦氏

<昨年度参加者の声>

- 改めてTPM活動を行うにあたり、3Sの重要性が大事と感じた。まずは清掃して設備の正常な状態を明らかにしてからでないと保全は出来ないと学んだ
- アドバイザーの講義、他社の改善事例を受けて、自社に取り入れていきたい

《生産現場リーダー力強化研究会》

～監督者哲学、リーダーシップ養成の場～

【目的】

生産現場リーダー力強化研究会では、監督者としての人間力、部下指導、育成方法や課題達成に向けた上司・部下及び他部門との連携方法（ベクトル合わせ）、コミュニケーション方法（話し方、聴き方とコーチング能力）など、戦略的リーダーのあり方を、内外の実務課題をテーマに徹底した討議形式で実践研究いたします

【参加対象】

Aコース：生産部門の職長、班長、係長

Bコース：研究会OB及び生産部門幹部

【ねらい】

Aコース→基本事項を踏まえた業務改善能力&リーダーシップの向上

Bコース→相互訪問、事例研究によるマネジメント&問題解決能力の向上

【研究項目（案）】

- ◇監督者に求められる作業の標準化による品質の作りこみ（不良流出防止対策等）の研究
- ◇監督者に求められる改善提案、5S、KY活動による強い現場作りの研究
- ◇監督者に求められる製造コストダウン（設備、治具、工程改善）の研究
- ◇監督者に求められるリーダーシップ（部下指導・育成、監督者哲学）の研究
- ◇参加企業及び外部企業訪問による現場管理・改善事例の研究

【定例日】

毎月 第3木曜日

【アドバイザー】

【新任】野口昭夫氏（元日新電機㈱）

日新電機㈱調達センターにて全社VE活動推進、ものづくり事業部含む3事業部長・㈱日新ビジネスプロモート社長歴任。人材開発部にてセミナー講師としてシックスシグマ活動、生産性向上活動推進。（公社）日本VE協会「普及功労賞」を受賞。現在は、日新アカデミー研修センターにてアカデミー教授として活躍中。

【初回例会案内】

と き 2021年6月17日（木） 10:00～17:00

と ころ 京都工業会・本会会議室

- 内 容
- 研究会活動の概要説明
 - 相互自己紹介
 - 年度方針の選定・確定
 - A、Bコースの確定
 - アドバイザーによる基調講演

<第2回例会以降の方向性>

開催	テーマ、内容、ゲストなど
第2回:7月	<p><コース別活動></p> <p><input type="checkbox"/>Aコース アドバイザーの講義と演習</p> <p><input type="checkbox"/>Bコース 討議「各社の現場活性化への課題」</p>
第3回:8月	<p><コース別活動></p> <p><input type="checkbox"/>Aコース アドバイザーの講義と演習</p> <p><input type="checkbox"/>Bコース 事例紹介「現場活性化への課題」と討議</p>

【昨年度活動の概要】 <ご参考>

基本方針 (研究項目)	より良い職場を構築するためのコミュニケーション方法及びリーダーシップ向上
活動内容 (前期)	<p>【講義】</p> <p>「現場管理の基本と第一線監督者の使命、役割」、</p> <p>「人間力：リーダーの役割～ダメなリーダー、リーダーとして必要な資質～」</p> <p>「人間力：組織風土～人を育てる聴き方～」、</p> <p>「人材育成について」、「目で見える管理」、「人生の振り返り」、</p> <p>「コストダウンの進め方」、「損益分岐点と改善目標の立て方」、</p> <p>「工場マネジメント：PL（損益計算書）とCF（キャッシュフロー）」</p> <p>【演習】</p> <p>「リーダーとしての自己チェック」、「人の話の聞き方」、</p> <p>「C A D S（Career Assessment and Development Sheets）による自己分析」、</p> <p>「B S / P L と C F」、「損益分岐点計算」</p>
(後期)	<p>【実践】</p> <p>「アクティブ・ブック・ダイアログ（ABD）体験」</p> <p>1冊の本を分担して読んでまとめる、発表・共有化する、気づきを深める対話をするというプロセスを通して著者の伝えようとすることを深く理解できる手法。上記の手法を体験し、まとめる力や要約して共有する事を体験した</p> <p>【オンライン事例紹介】</p> <p>「TQM活動、方針管理等」</p> <p>「上司と部下のベクトル合わせについて」</p> <p>【各社困りごと】</p> <p>参加企業各社の現状の困りごとを持ち寄り、解決に向けて討議を行った</p> <p>【活動のまとめ】</p> <p>リーダーシップ発揮のノウハウや上司とのベクトルを如何に合わせていくか、部門間連携方法、既に実務に活かした点等をまとめた</p>
アドバイザー	元パナソニック(株)人材開発センターのづくり研修センターOB講師 川崎和久氏

<昨年度参加者の声>

- 他社との交流も行え、自分自身の得手不得手を改めて知る良い機会になった
- 討議での発案や発表など得意ではなかったが、新たな視野を得ることができた

<令和2年度 参加企業(50音順)>

No	会社名
1	(株) イ シ ダ
2	N K E (株)
3	(株) 桶 谷 製 作 所
4	グ ン ゼ (株)
5	K N 村 田 産 業 (株)
6	(株) 工 進
7	(株) 阪村エンジニアリング
8	(株) サンコンタクトレンズ
9	(株) G S ユ ア サ
10	島 津 エ イ テ ッ ク (株)
11	島 津 産 機 シ ス テ ム ズ (株)
12	(株) 島 津 製 作 所
13	島津プレシジョンテクノロジー(株)
14	双 和 電 機 (株)
15	田 中 精 工 (株)
16	ニ チ コ ン 亀 岡 (株)
17	ニ チ コ ン 草 津 (株)
18	(株) ニ チ ダ イ
19	N I S S H A (株)
20	(株) 日 進 製 作 所
21	日 新 電 機 (株)
22	日 本 機 材 (株)
23	(株) 堀 場 エ ス テ ッ ク
24	(株) 堀 場 製 作 所
25	(株) 堀 場 テ ク ノ サ ー ビ ス
26	マ ル ホ 発 條 工 業 (株)
27	村 田 機 械 (株)
28	(株) モ リ タ 製 作 所
29	(株) 山 岡 製 作 所